



京都府自死・自殺関連機関連絡会議

ー第1回設立準備会に出席しましたー

9月13日（木）、第1回京都府自死・自殺関連相談機関連絡会議が開催されました。この会議は、京都府が中心となり開催されたものです。

参加団体は、京都の弁護士会、司法書士会、保険労務士会といった専門家グループや、自死について活動するグループ、教育委員会や各地域の保健所、行政担当課など。これらの機関のネットワークをつくることによって、〈各相談機関の強みを生かしたオール京都での相談体制〉〈相談者を地域で支える仕組み作り〉を目指します。

また、悩みを抱えた方を、様々な分野の専門家が集まる〈いのちのサポートチーム〉が寄り添い支援をすることで、それぞれの事情に合わせたきめ細かい支援を目指します。

当センターは、この会議で「死にたい気持ちを抱えている方」「大切な人を自死で亡くした方」の気持ちを受け取ってきた経験を生かして、あくまで悩みを抱えた方を大切にしたい、当事者中心の活動が展開されるように積極的に意見をしたいと考えています。

自死・自殺にかかわる問題への取組みは、全国どの地域でも手探りで進めているのが現状です。京都でのこうした取組みが有効に機能するようになれば、全国各地の取組みへも良い影響を広げることになるでしょう。地域における活動も、そうした広い視野で取り組むことが大切です。

今回は準備会ということで、参加団体どうしの顔合わせ的な意味合いが強かったのですが、今後回を重ねていくことで、地域のネットワークが有効に機能することを期待します。

(事務局長 金子宗孝)

「Sotto 語りあう会」 開催報告

10月11日（木）、語りあう会を開催しました。今回は2名の方が参加されました。

次回は12月13日に開催する予定です。この語りあう会は、お仕事をもった方にも来ていただけるように、平日の夜間の時間帯にしています。また、子育て中の方にも安心してきていただけるように、託児室も設けています。大切な人を自死で亡くした方にとって「ひとりぼっちじゃない」と感じていただけるような、あたたかい空間づくりをして、お待ちしております。 (N.Y.)

※次回の詳細は別紙チラシをご覧ください。

Sotto レビュー

『遺書～5人の若者が残した最期の言葉』

なぜ、自ら生命を絶たねばならなかったのだろうか？

自ら生命を絶ったという事実に対して否応なく生じてくる、胸を搔きむしられるような想いである。

5人の若者たちの遺書や日記からは、自ら死のうとする人の複雑なところの内が伝わってくる。繰り返し本書を読むと、自ら生命を絶つということが、いかに人間らしい行為であるのかと痛感する。決して単純ではない、想いを巡り巡らせた上で、如何ともしがたい想いが積み重なって選ばれる死。この世には、私たちにとって死ぬこと以上に苦しいことがある。その苦しみに遭って自ら死を選んだことを、遺された者を除いて、だれが責めることができるというのか。

遺された者のところの内も同様に複雑である。故人へ宛てられた手紙には、あまりにも多くの想いが込められていて、読むものの胸を瞬時に一杯にする。丁寧に綴られた一つひとつの言葉に、故人に対する想いが溢れている。慈しみ、後悔、哀愁、怒り、自責。繊細で複雑なその想いに、胸を引き裂かれる。

自ら生命を絶たなければならなかった者と残された者の生の言葉を通して、そのありのままの想いを感じ、あらためて自分自身の死ぬこと生きることを考えさせられた。(T.R.)



被災地ノート⑪



さびしげな顔

震災から1年半が経過した、ある休日。

仮設住宅の近隣では、みるみる新築家屋が建ち並び始めており、トンカチの音も忙しく鳴り響いている。その日は、どうしたわけか仮設住宅内のあちこちからも、トンカチの音が聞こえていた。

見ると、仮設住宅の入居者たちが力を合わせて、ベランダの雨樋を作ったり、玄関に棚を設置したり、踏み板を補強したりと、それぞれに日曜大工に取り組んでおられた。木材は、家屋の建築で余ったものをもらってきたのだろう。

「この仮設にいつまでもいるつもりはないんだけどね」そう言って、はにかみながら、トンカチを叩くお父さんがいた。その手際のよさは、震災前にどんな職業を営んでいたのだろうか。仮設に住む人々から必要とされている喜びに溢れていた。

あるお母さんは、仮設の玄関に棚を付けてもらえることを、大変楽しみにされていた。その棚には、これまで育ててきた植木の鉢を載せるのだそうだ。そのことが、「いま一番の夢」なのだともおっしゃった。余った木材で設えられた棚がである。それでも、いまの彼女にとって、それはかけがえのない夢に違いないのだ。できあがった棚を見る目には、涙が浮かんでいた。

人と人とのつながり、誰かから必要とされること、自分の居場所、そうした居心地のよさが感じられる、さわやかな秋空によく似合う風景だった。

しかし、一方で、そうした風景をチラリと覗く顔もあった。歓声から離れた所にある、さびしげなその顔が、周りの空気と対比的で、とても印象に残った。

(ボランティア2期生 A.C.)

今月のことば

誰にも、なにも話したくないときもある。

誰にも。どんなひとにも。誰ひとり。

ひとりで考えたい。

私の悲しみだから。ほかの誰のものでもないのだから。

(マイケル・ローゼン『悲しい本』あかね書房)

活動報告

● 9月期電話相談件数…146件（無言11件、よりそいホットライン担当34件を含む）

● 相談活動委員会

グループ研修 9月3日（月）10名、9月20日（木）10名

● 広報・発信委員会

委員会会議 9月6日（月）6名

● グリーフサポート委員会

委員会会議 9月6日（月）5名

研修会 9月23日（日）10名



寄付ご協力一覧（敬称略・順不同）2012年9月1日～9月30日

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

滋賀県犬上郡・瑞祥寺

藤岡大英

野呂昶

竹田空尊

中村トシ子

源照寺

海野秀子

ご協力にこころより感謝いたします

● 支援方法

賛助会員 年間1口3,000円

寄付 金額は問いません

法人会員 年間1口10,000円

● 会費・寄付金振り込み先

郵便時間 ゆうちょ銀行[振替口座] 00950-0-271875

他行間 ゆうちょ銀行[当座] ゼロキョウキョウ 〇九九店 0271875

Sotto コメント

秋らしい天気が続く京都です。朝夕は少し寒くなってきました。衣がえを先のばしにして、つつい背中を丸くして歩いていきます。体が寒くなると不思議と心にも影響してくるようです。せめて体だけは温かくなるようにしたいと思います。

(N.Y.)

発行 2012年10月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町92

TEL 075-365-1600

URL <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp